

米子市子どもの読書活動推進 ビジョン(第5次計画)素案 概要版

米子市教育委員会では、子どもたちの読書活動の推進を図るため、「米子市子どもの読書活動推進ビジョン」を策定しています。このたび、「米子市子どもの読書活動推進ビジョン(第4次計画)」が令和8年度末で終期を迎えることから、「米子市子どもの読書活動推進ビジョン(第5次計画)」の素案を作成しました。

スローガン

計画が目指す子ども像を分かりやすく示すため、第4次計画のスローガンを継承し、次のとおり第5次計画のスローガンを定める。

本が大好き、米子の子ども

計画策定の目的

子どもの読書活動を米子市全体で後押しするため、市立図書館、学校などのあらゆる関連施設における取組を充実させ、子どもたちや保護者への多様な支援体制を整えることを目的とする。

計画の対象・期間

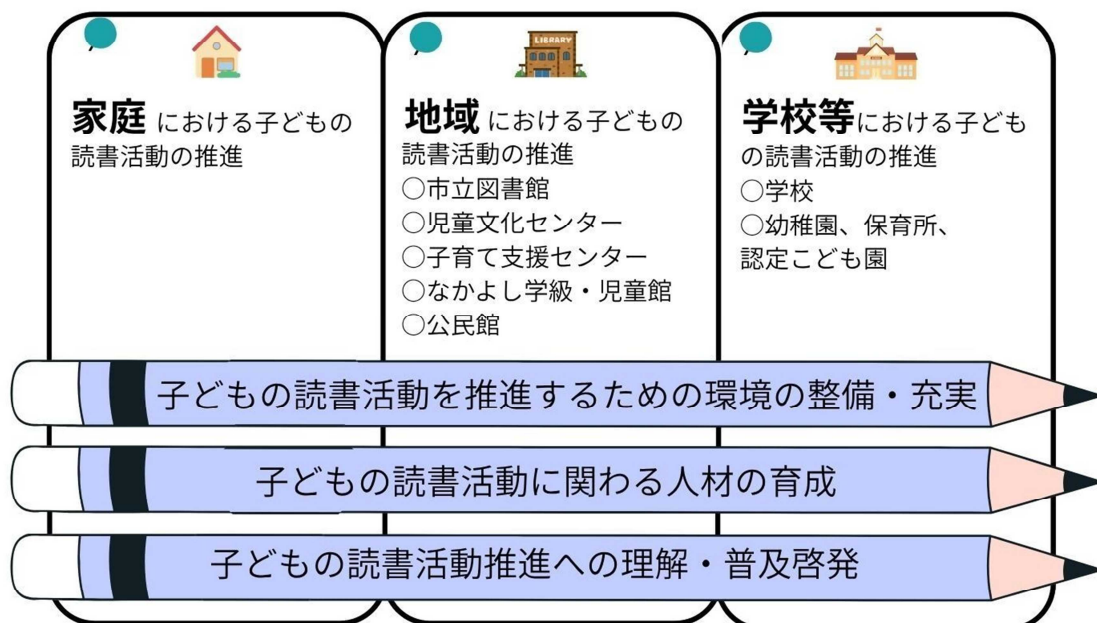
計画の対象：おおむね18歳以下の全ての子ども

計画の期間：令和9年度から令和13年度までの5年間

基本方針

次の3つの基本方針のもと、家庭、地域、学校等において、様々な方策に体系的に取り組んでいく。

- (1)子どもの読書活動を推進するための環境の整備・充実
- (2)子どもの読書活動に関わる人材の育成
- (3)子どもの読書活動推進への理解・普及啓発



第4次計画の評価

第4次計画における子どもの読書活動の推進を図るための施策について、主な取組と課題を整理して評価し、第5次計画の取組に反映させることとする。

家庭	保護者支援、乳幼児期の読書活動のきっかけ作り、イベントの開催に取り組み、家庭で読書に親しむ環境づくりを推進した。一方で、講座や施設を利用していない保護者層に対しては、読書や読み聞かせの意義を啓発する機会が少ないことが課題である。
地域	市立図書館・児童文化センター等の施設において、読書環境の整備、子ども向けイベントの開催により、読書に親しむ機会を提供した。今後は、子どものニーズを捉えた蔵書の更なる充実や、より魅力的なイベントの実施など、利用層の拡大に向けた取組を一層推進していく必要がある。
学校等	学校においては、「朝の読書」の実施、読書週間等のイベント開催により、読書習慣の定着を図った。また、保育所等では、読み聞かせや絵本貸出を通じ、乳幼児期からの環境づくりを推進した。今後は、「読書会」などの子どもが主体的に本に親しめる環境づくりを進める必要がある。

第5次計画の取組

第5次計画では、3つの基本方針に基づき、家庭・地域・学校等において、次の取組により子どもの読書活動を推進することとする。推進に当たっては、地域・学校等が協力し、家庭での取組を支援していくものとする。



家庭

- ・ブックスタート
- ・イベントの開催
- ・読み聞かせの啓発
- ・情報の提供

図書館

- ・児童図書の貸出
- ・レファレンス
- ・移動図書館車の巡回
- ・おはなし会

児童文化センター・子育て支援センター等

- ・絵本の読み聞かせ
- ・団体貸出
- ・おはなし会
- ・読み聞かせの啓発

学校

- ・朝の読書
- ・授業での学校図書館利用
- ・調べ学習
- ・読書傾向に応じた本の紹介

幼稚園・保育所・認定こども園

- ・絵本の読み聞かせ
- ・おたよりの発行
- ・家庭への絵本貸出
- ・読み聞かせの啓発

数値目標

第5次計画では数値目標を次の表のとおり設定し、目標に向かって子どもの読書活動推進に取り組む。

・全く本を読まない子どもの割合を減少させる。					
小学校 (6年生)	R4 から R7 の平均	25.2%	→	R13	20.4% (R3 の実績)
中学校 (3年生)	R4 から R7 の平均	35.6%	→	R13	32.7% (R3 の実績)
・市立図書館の児童書貸出冊数(12歳以下人口一人当たり)を増加させる。					
	R4 から R7 の平均	年 11.8 冊/人	→	R13	年 12.3 冊/人 (R3 の実績)
・市立学校図書館の貸出冊数(児童・生徒一人当たり)を増加させる。					
小学校	R4 から R7 の平均	年 106.7 冊/人	→	R13	年 112.0 冊/人 (5%増)
中学校	R4 から R7 の平均	年 30.6 冊/人	→	R13	年 32.1 冊/人 (5%増)